

関西グローバルヘルス(KGH)の集い 2021



大阪大学大学院人間科学研究科
ユネスコチェア運営室 助教

小笠原 理恵

米国アリゾナ州で看護学を学んだ後、中国上海市の外資系医療機関でクリニックマネージャーを務める。2017年大阪大学大学院人間科学研究科博士課程修了、2018年より現職。



公益社団法人日本WHO協会 理事長
大阪大学名誉教授

中村 安秀

和歌山県田辺市生まれ。小児科医。インドネシアの北スマトラ州で家族連れで暮らし、電気も水道もない農村で保健ボランティアと子どもの健康向上に取り組んだのが原点。国立国際医療研究センター理事。

2020年のふりかえり

関西グローバルヘルス(KGH)の集いは、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミックによってface-to-faceの「集い」ができない状況の中、2020年5月にオンラインセミナーを始めました。外出自粛中でも知見を広く普及することにプライオリティを置いて、これまで2シリーズを計6回にわたってYouTubeでのライブ配信をしてきました。このオンラインセミナーシリーズは、主催側の予想をはるかに上回る盛況ぶり、のべ3,000人以上の皆さまにご視聴頂きました。さらにKGHでは、「自由闊達な議論の場の提供」を目的としたGlobal Caféを企画・開催し、オンラインセミナーシリーズでは実施できなかった双方向型ディスカッションの場を提供しました。参加人数を限定して行ったGlobal Caféでは、文字通り、思う存分に大風呂敷を広げて自由なディスカッションを楽しみました。

2021年 オンラインセミナー 第3弾への道

第3弾の企画は、第2弾シリーズ中にもすでに着々と構想が進んでいました。当初、2021年の春にはCOVID-19も落ち着いているだろうという希望的観測から、「プラネタリー・ヘルス(地球の健康)」の視点からCOVID-19を考える内容を企画していました。しかし、春になってもCOVID-19は収まるどころかさらなる猛威をふるい続けました。再度運営委員のみんなでも議論の中で、「プ

ラネタリー・ヘルスに議論を進める前に、まだやらないといけないことがあるのでは？」という思いが高まりました。

そのきっかけとなったのは2021年3月に開催された日本国際保健医療学会(Jaih)西日本地方会でした(写真1)。この学会の大会長を務めた近畿大学の安田直史さん(日本WHO協会の理事かつKGHの集い運営委員)は、学会の抄録の中で次のように呼び掛けていました。

2020年は前年末に始まったCovid-19のパンデミック化で、多くのことがこれまでのあたりまえから一変した年でした。国際、国内、公衆衛生、臨床、基礎研究に関わる全ての保健医療関係者が、それぞれの分野で対応に追われたことと思います。まさにグローバルに連帯した対応を求められたわけですが、残念ながら非難、差別、分断、隠蔽、競合と、想定外の過ちも犯してきたように思われます。今回のパンデミックから私たちは何を学ぶのでしょうか？

安田さんの呼び掛けをふまえ、私たちはJaih西日本地方会を通じて、以下の課題に行きつきました。1)なぜ日本では(英国・タイのように)保健ボランティアが動かなかったのか、2)オンライン国際協力で、できること、できないことは何か、3)ソーシャル・ディスタンスによって、誰かを取り残しているのではないか、4)プライマリヘルスケアを日本で定着させるには、どうすればいいのか。

こうした経緯を経て、第3弾のオン

ラインセミナーのタイトルを「COVID-19からの学びは国境を越えて—Lessons Learnt from COVID-19 beyond Borders—」とし、上記の1)保健ボランティア(写真2)、2)オンライン国際協力、3)ソーシャル・ディスタンスを取り上げて、深くディスカッションすることに決定しました。

なお、第3弾の各回のセミナー報告は次号の『目で見えるWHO』に掲載予定です。乞うご期待！

オンラインセミナー第4弾(秋開催予定)

オンラインセミナー第4弾では、「プラネタリー・ヘルス(地球の健康)」を取り上げる予定です。

哺乳動物、鳥類、爬虫類、魚類、昆虫、植物、微生物、そしてウイルス。人間はさまざまな生物の恩恵を受け、時には攻撃を受け、これまで種としての生存を続けることができている。WHOが、「かつては知られていなかったが、最近になって新しく認識された感染症」を、「新興感染症(Emerging Infectious Disease)」と名付けたのは1990年であり、代表的なものにHIV/エイズ、エボラウイルス病、ラッサ熱、SARS(重症急性呼吸器症候群)などがあげられます。

こうした新興感染症の台頭には、実は、地球温暖化による生態系の変化、治療薬の普及による耐性菌の増加、交通手段の発展によるヒトとモノの移動の速さなど、多くの「社会的」「環境的」要因が関係しています。また、世界で発生する新興

The 39th Western Regional Conference of Japan Association for International Health

第39回 日本国際保健医療学会 西日本地方会

「私たちは COVID-19 から何を学ぶのか？」

シンポジウム

川原尚行氏 (NPO 法人ロシナンテス)
牧本小枝氏 (JICA 緒方研究所)
安田直史 (近畿大学) ほか

COVID-19で国際保健活動にどんな影響があり、どう対応してきたのか、その経験・アイデアを共有し、今後のあり方を一緒に考えましょう。

ユースフォーラム (学生会 JAIH-S)

「医療現場での障壁やスティグマ」
上瀬由美子先生 (立正大学心理学部教授)
井戸田 一朗先生 (しらかば診療所院長)

COVID-19で我々は感染者や医療従事者に対するスティグマや差別を経験してきました。これらの背景にはどのような心理的背景が潜んでいて、我々には何ができるのでしょうか。みんなで考えてみませんか。

日時
2021. 3.6 Sat
9:00 ~ 17:00
オンライン開催

会長
安田直史 (近畿大学)

お問い合わせ
演題応募
(口演、ポスター)
参加申込は →



(写真1) 日本国際保健医療学会西日本地方会のチラシ

日本WHO協会 関西グローバルヘルス(KGH)の集い
オンラインセミナー第3弾 (YouTube生配信)!

COVID - 19からの学びは国境を越えて

第1回 (第14回KGHの集い)

保健ボランティア なぜ、日本には活躍の場がないのか?

日時: 2021年5月12日 (水) 19:00 ~ 20:30

- 試験的に1週間の見逃し配信サービスを行う予定です。見逃し配信での視聴にも参加登録が必要です。

話題提供

- ◆ 中村 安秀 氏 (日本WHO協会)
- ◆ コメントーター (五十音順)
- ◆ 小松 法子 氏 (創価大学看護学部)
- ◆ 佐伯 壮一朗 氏 (大阪大学医学部)
- ◆ 島戸 麻彩子 氏 (University College London 医学部医学科)
- ◆ 仲佐 保 氏 (シェア=国際保健協力市民の会)
- ミニ・パネルディスカッション

~話題提供者から~

COVID-19で外出制限が厳しくなり、医療者がコミュニティに入っていけないなか、世界の多くの国では保健ボランティアが活躍した。赤十字のボランティアが活躍したイタリア、医学生が診療の手伝いをした英国、平時から活動していた保健ボランティアが地域に密着し病院や行政と住民の間をつないだ多くの低所得国。

なぜ、日本では保健ボランティアが活躍する余地がなかったのか？ 医療崩壊の寸前で人手が不足している状況にもかかわらず、平時のしきたりと論理が優先する。この硬直した社会構造はシリコン・テックが『サイロ・エフェクト』で指摘した高度専門化社会の裏を彷彿とさせる。保健ボランティアの課題を真摯に追求することで、変わらなければならない日本社会の姿が見えてくるはずである。

参加方法
右記QRコードまたは から、
お申込み下さい。後日YouTubeのリンクをメールでお送りします。

お問い合わせ 関西グローバルヘルスの集い運営委員会
kansai.gh.tsudoi@gmail.com (メールでお問い合わせ下さい)



(写真2) KGHオンラインセミナー第3弾 第1回のチラシ

感染症の半数以上は動物由来だといわれており、その感染症対策は、ヒトのみならず家畜や野生動物の感染も含め、専門領域を超えて協働することが必要不可欠です。これまでも WHO や国際獣疫事務局 (OIE) などが「One Health」を提唱してきました。COVID-19 が世界で猛威をふるうなか、地球の健康と人間の健康の関連性を統合的にとらえるプラネタリー・ヘルス (Planetary Health) という発想に世界の関心が集まっています。

オンラインセミナー第4弾では、医学・医療の枠を超え、野生動物や家畜動物、環境などの専門家をお招きしての話題提供と、それに続くミニ・パネルディスカッションを通して、プラネタリー・ヘルス領域に挑戦していきます。

Global Café 2021 (夏・冬開催予定)

2021年春、COVID-19の流行はまだ

取まる心配がありません。Face-to-faceで集ってディスカッションをかわせるまでには、もう少し時間が必要なようです。KGHの集いでは、自由闊達かつ双方向型の議論の場を提供すべく今年もGlobal Caféの開催を予定しています。「参加型セミナーはちょっと……」と躊躇する方もいらっしゃるかもしれませんが、一度思い切ってDiveしてみてください。楽しくかつ真剣に、一緒に熱い議論を交わしましょう！

関西グローバルヘルス (KGH) の集いは、関西を中心に、グローバルヘルスに関する諸問題について、あらゆる角度から自由闊達に議論ができる場の提供を目的に始まりました。参加費は要りません。参加資格もありません。グローバルヘルスに関心のある方は、どなたでもご参加頂けます。オンライン開催をきっかけに、今では私たちの活動は関西の枠を超えて全世界に広がりつつあります。KGHの活動については、随時日本WHO協会NEWSで配信されるとともに、協会のホームページでご確認頂けます。普段はつながりのないひとたちとつながって、真剣、かつ楽しく切磋琢磨しましょう！

KGHの集いに関するお問い合わせは、kansai.gh.tsudoi@gmail.comまでお願いします。運営委員として一緒に活動してくれる仲間も随時募集しています！